

(テーマ) ホスピスボランティア養成講座

(申請者) 前林 尚子

(助成対象年度) 2012年度前期

(提出年月日) 2013年3月25日

テーマ：家で生きる

在宅ホスピスボランティア講座

開催：H24.12.8 13:00～17:30

参加者：32人

30歳代～80歳代

女性30人 男性2人

（報告・感想）当初、10月28日（日）と2月24日（日）の2回シリーズで計画していましたが、参加者の都合で、12月8日（土）にまとめて行うことに変更しました。予定より多くの参加希望があり、希望者全員受け入れたので、会場は窮屈となってしまいました。

期待できる効果として、以下を計画していました。

- ① 市民が講座を受講することでホスピスボランティアの知識と技術を習得する。
 - ② ホスピスボランティアとして地域住民が在宅療養者のインフォーマルサービスを提供する
 - ③ 在宅介護を終えた遺族がそれまでの知識と技術を活用し自尊感情を高める
- 上記において、達成できたのは、③のみと考えます。

① ②に関しては、受講生の習得度から、次年度以降の課題として残ります。

習得度を向上させるためには、回数や時間を少なく、長期にわたって、本講座を継続していくことが必要であると考えます。

参加者が自分の体験を語ることで、苦しいことの意味づけができ、生きることの意味を見出していく様子がわかり、聞いている方も元気づけられるのではないかと思います。

聞いている人が自分の体験と似ている体験を聞くときのほうが、自分での解釈がすすみ、受容できていくようで、よい反応をいただきました。

しかし、自分と全く違う病気の過程であったり、家族構成であったりすると、聞くことが苦痛になってくることもあると思います。受講者は非常に疲れたのではないかと心配します。市民対象の講座の場合、高齢者が多いので疲労しないような配慮が不可欠であることがよくわかりました。

本講座を開講するにあたっては、会場設営や参加者への配慮など、参加者同志のサポートが今回、非常に役立ちました。手作りのケーキなど茶菓子の差し入れてくださったり、身体を気遣う言葉かけをしてくださったりしたことで、長時間でもなごやかに、進行しました。

本講座は公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団の助成により行うことができ、深く感謝申し上げます。

家で生きる

～在宅ホスピスボランティア養成講座～

日時：H24年12月8日 13:00～17:00

*****プログラム*****

13:00 1.市民のためのホスピスケア

13:30 2. 家で行う医療

13:45 在宅ホスピスケア 看護の立場

14:00 3. 家族の経験

夫と歩んで

母を見送って

14:45 休憩

15:00 4.市民ができるホスピスケア

15:30 5.家族の経験

夫と歩んで

妻と歩んで

母と過ごして

16:30 6. 懇話会